

2025（令和7）年度

庄内自然博物館構想推進協議会

日 時：2025 年 3 月 27 日（木）15:00～17:00

会 場：鶴岡市自然学習交流館ほとりあ

…… 次 第 ……

1. 開 会

2. 協議会役員の選任について

3. 報 告

（1）2024 年度 会議報告

（2）2024 年度 事業報告

（3）2024 年度 収支決算

（4）その他

- ・庄内セブンの森の協定締結について
- ・庄内銀行ふるさと創造基金地域貢献大賞の受賞について
- ・鶴岡市自然学習交流館ほとりあの地域おこし協力隊について
- ・庄内自然博物館構想推進協議会設置要綱の改正について

4. 協 議

（1）2025 年度の協議会の体制(案) 及び会議予定（案）

（2）2025 年度 事業計画（案）

（3）2025 年度 収支予算（案）

（4）サポーター制度について

5. その他

（1）情報提供

- ・山形県愛鳥週間ポスターコンクール事業について
- ・里山あるき「大山上池・下池」について
- ・JT の森について
- ・大山上池・下池ため池耐震補強工事について
- ・高館山遊歩道について

6. 閉 会

2. 報 告

(1) 2024 年度 事業報告

庄内自然博物館構想推進会議の経過

① 庄内自然博物館構想推進協議会

日 時:2024 年 3 月 29 日(金)15:00～17:00

場 所:大山コミュニティセンター会議室

内 容:2023 年度の事業報告、2024 年度の事業計画

② 庄内自然博物館構想推進協議会 運営委員会

第 1 回

日 時:2024 年 5 月 27 日(月)15:00～17:00

場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室

内 容:中長期計画(2024～2028 年度)の取組み方向性について

第 2 回

日 時:2024 年 10 月 28 日(月)15:00～17:00

場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室

内 容:今年度の取組みの進捗状況について

第 3 回

日 時:2025 年2月 17 日(月)15:00～17:00

場 所:鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 2階学習交流室

内 容:中長期計画の進捗管理と次年度の推進について

2024 年度 協議会事業・ほとりあ事業 報告

1. 来館者数 ***別紙①参照**

○2024 年4月～2025 年2月の入館者数:**24,269 人** 稼働日数 281 日(平日 176 日、土日祝 105 日)

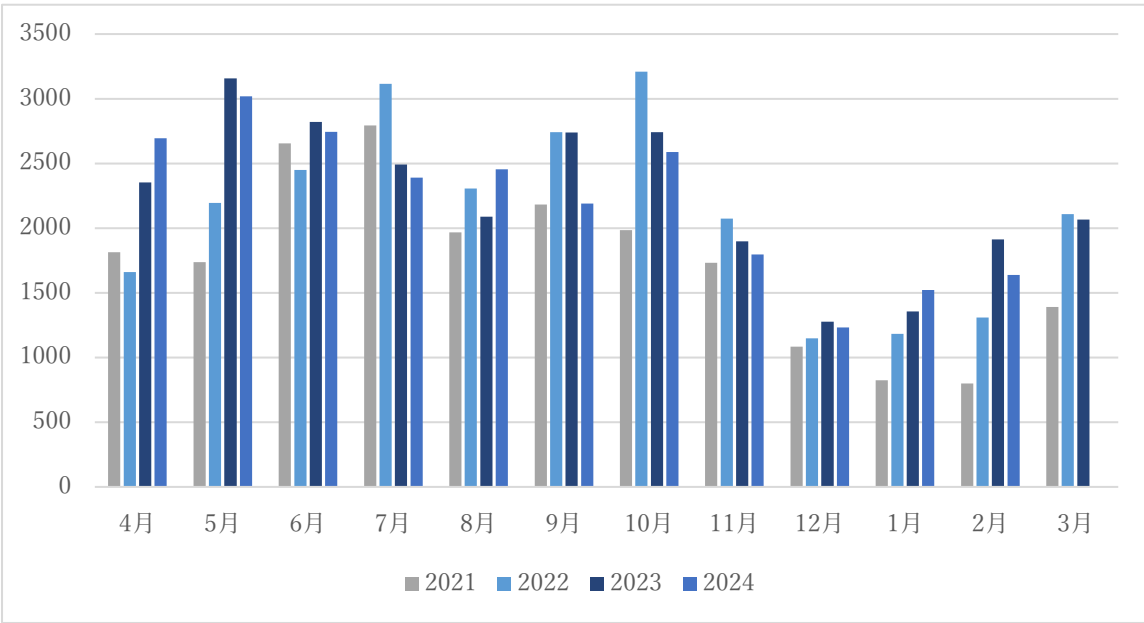
1 日平均:86.4 人、平日平均:66.8 人、土日祝平均:119.2 人

○2023 年4月～2024 年2月の入館者数:**24,853 人** 稼働日数 282 日(平日 176 日、土日祝 106 日)

1 日平均:88.1 人、平日平均:70.5 人、土日祝平均:117.5 人

○開館からの来館者総数は、**331,006 人**

*2021 年4月～2025 年2月までの月別の来館者数のグラフを下記に示す。



2. 学習交流室

4月から2月まで延べ 69 団体(学習 42、研修9、会議 3、レクリエーション 19)、1,363 人

*2023 年度4月～3月:67 団体(学習 35、研修9、会議4、レクリエーション 18)、1,364 人

	学習		研修		会議		レクリエーション		視察		その他	
年度	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024
4月	2	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
5月	3	3	0	1	0	0	4	5	0	0	0	0
6月	5	6	2	1	0	0	4	3	0	0	1	0
7月	4	4	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0
8月	2	3	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0
9月	5	7	1	0	1	0	5	2	0	0	0	0
10月	6	5	3	2	0	1	3	3	0	0	0	0
11月	2	6	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
12月	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
2月	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
3月	1		0		0		1		0	0	0	
合計	35	42	9	9	4	3	18	19	0	0	1	0

3. イベント事業報告

(1) イベント

2024 年4月～2025 年2月までのイベント参加者:3,051 名 **(別紙②参照)**

主な事業:保安全管理イベント:9回(172 名)、自然観察会:10 回(173 名)、里地里山学講座:4回(107 名)、ワークショップ:149 回(2,237 名)、散策会:7回(71 名)、座談会:1回(14 名)、その他:4回(253 名)

*2023 年度は 3,565 名

(2) 企画イベント

(2)-1. 都沢湿地ウォークラリー～どろっばからの手紙！～

2020 年度より、新型コロナウイルス対策を行いながら非接触で開催できるイベントとして、ウォークラリーを実施。散策しながら都沢湿地について知ってもらう機会となった。

(2)-2. 自然観察会「春の庄内アルプスを歩こう」

庄内アルプス(油戸～ほとりあルート)を歩く自然観察会を実施。大変好評で、定員を上回る申し込みがあった。11 月3日には、「紅葉の庄内アルプスを歩こう」も実施した。

(2)-3. 保安全管理イベント「家畜導入による湿地管理」

ヤギの導入による湿地管理や魅力発信事業を実施している。、ヤギを通して多くの市民が湿地に興味関心をもつきっかけとなっている。

(2)-4. ほとりあぬり絵コンテスト

都沢湿地再生のキャラクター「どろっば」や、ヤギの「ほとべえ」をテーマとした絵部門と、指定のデザインから選んで応募するぬり絵部門でコンテストを開催。259 枚の応募があり、入賞者の表彰式、作品展示を実施した。

(2)-5. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト

応募数:276 名(2023 年度:453 名)、正解者 22 名(正解は 10 月 7(月))

*2022 年度より、正解者から抽選で選ばれた 1 名にコハクチョウのぬいぐるみと湯田川温泉の宿泊ペアチケット券を贈呈



自然観察会「春の庄内アルプスを歩こう」



コハクチョウ初飛来日あてコンテスト
当選者にぬいぐるみと温泉チケットの贈呈

(2)-6. 里地里山学講座

第1回〔特別講座〕（6月16日）

大山上池・下池ラムサール条約湿地登録15周年記念事業

「ラムサール条約の神髄と日本のラムサール条約登録湿地の変遷と今後について」

講師：名執 芳博 氏（国際湿地保全連合 相談役）

参加者数：21名



講演風景



講師の名執氏

第2回（7月21日）

「庄内自然博物館構想の過去・現在・未来」

講師：平 智 氏（山形大学農学部 名誉教授）、

林田 光祐 氏（山形大学農学部 名誉教授）

参加者数：27名

里地里山学特別講座（2月2日）

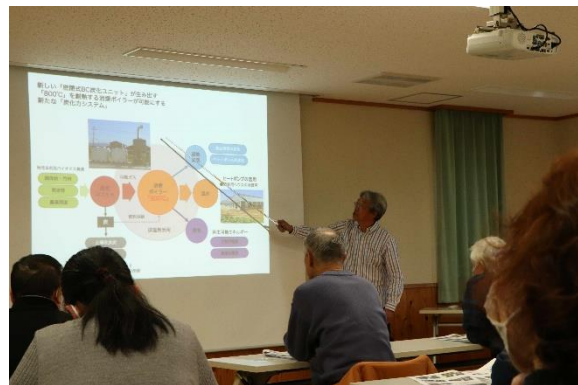
「地域の未利用資源をバイオ炭へ」

講師：島田勇巳 氏（有限会社紋珠 高槻バイオチャーエネルギー研究所）

参加者数：25名



講演風景



講師の島田氏

第3回（2月15日）

「写真冊子・「ブナの声」に取り組んで」

講師：斎藤 政広 氏（自然写真家）

参加者数：40名

4. 館内展示

自然写真家として活躍されている斎藤 政広 氏をお招きし、写真冊子・「ブナの声」の作成に取り組んだご経験等を基にお話しいただく里地里山学講座（2月15日）の開催にあわせ、企画展示として「自然写真家 斎藤政広 ブナの声 2025」を開催した。



5. 都沢湿地保全管理事業

(1) 通常管理

施設スタッフが年間を通じて、下池からの湿地への入水および湿地内の水位管理を行った。作業道および水路管理のための草刈りの実施。湿地内に生育する外来植物や陸地化の原因であるヤナギ、ノイバラは秋～春にかけて施設スタッフと有償事業者で伐採を実施中である。その他にも冬季水門の堆積物の除去などを実施予定。

(2). 保全管理イベント事業

今年度はこれまでの通常イベントに加え、昨年度に引き続き、マコモやヨシの刈り取りなど9回の活動を計画し、172名（1回あたりの平均19.1名）の方が活動に参加した。

(3) 外来生物定期駆除

①捕獲日数及びワナ数

6月6日～10月17日の期間に39日間、4,415罠を設置し、捕獲調査を実施。

（2023年度：5月14日～10月19日の期間に46日間、4,995罠）

②捕獲結果

・【ウシガエル成体】1,092個体のウシガエル成体を捕獲。（2022年：771個体、2023年：1,286個体）
年間のCPUEは成体0.25（2022年：0.16、2023年：0.26）

・【ウシガエル幼体】120個体のウシガエル幼体を捕獲。（2022年：6個体、2023年：7個体）
年間のCPUEは幼体0.003（2022年：0.001、2023年：0.001）

・【アメリカザリガニ】16,883個体（大11,408個体、小5,475個体）を捕獲。
（2022年：14,702個体、2023年：19,982個体）

・全体CPUE 3.82、大=2.58、小=1.24（2023年4.00、大=2.47、小=1.53）

(4) 連携事業による管理

①西郷土地改良区との共同作業

開館から毎年1回、西郷土地改良区と下池堤体内の外来植物駆除を実施している。今年度はアメリカセンダングサ、オオオナモミの生育が多数確認され、その駆除作業を行った。水位低下により外来植物の生育が促進されたものと考えられる。

②企業団体連携

例年に引き続き、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社山形テクノロジーセンターの生物多様性イベントを都沢湿地で開催した。また、今年度も朝陽ライオンズクラブ、そして鶴岡ライオンズからも保全管理イベントに参画いただいた

③就労支援連携事業

2020年度から多機能型事業所いちほ（鶴岡市青柳町）と委託契約を結び、4～10月までの月1回の団体派遣を通じて集草作業など軽作業をお願いしている。

6. 外来生物活用プロジェクト

2014年度から駆除した外来生物を新たな地域資源として有効活用することを目的とした「外来生物活用プロジェクト（11年目）」事業を立ち上げ、地域飲食店に駆除個体を食材として提供している。今年度の提供店舗は、ビストロ・デ・ポン（三川町）とラーメンダイニング晴天の風の2店舗に決定し食材として提供を行った。また、前年度の賞味期限検査の期間を長くしたため、今年度はアメリカザリガニの粉末化の製作は行わず、前年度分を利用して、三川町の多機能事業所の協力で「ざりっ粉まんませんべい」を作成し、施設での販売を実施している。また、初めての試みとして、外来生物らーめんレシピを募集し、市内の小学生の提案レシピを実際にラーメン屋（晴天の風）にて1月中に販売した。関連事業として、鶴岡市の富樫製麺に協力してもらい、ざりっ粉を麺に練りこんだ乾麺も製作した。アメリカザリガニの間接的資源利用として、市内の養鶏場に協力してもらい「ざり卵」も誕生した。

7. 調査研究

(1)大山上池・下池及び都沢湿地の水質浄化に関する研究

調査者：山形大学農学部 助教 梶原 晶彦

(2)大山上池・下池及び都沢湿地における植生に関する研究

調査者：山形大学農学部 教授 林田 光祐

(3)湿地植生等ドローン撮影業務

調査者：フレームワークス写真事務所

8. 湿地攪乱

(1)都沢湿地攪乱業務

2025年3月下旬に都沢湿地北側区域にて実施

9. サポーター活動

(1)サポーター数

2025年2月末現在のサポーター数は89名（2023年度 2024年2月末時点91名）。

アクティブ会員81名、賛助会員8名（内団体1）となっている。

(2)サポーター券

2025年2月末現在のサポーター券は508枚を発行。（2023年度 2024年2月末時点675枚）

2024 年度 環境保全応援寄附金事業 中間報告

2024 年度 寄附金事業の収支報告（2 月末日現在）

○繰越

・ 1,462,006 円

○入金

・ 718,534 円

	件数	金額	備考（内訳等）
個人	9 件	44,000 円	
団体等	3 件	23,000 円	笑楽校 様 (株)エコー 様 (一社) SokedachiCreative 庄内 様
協議会 事業等	—	413,178 円	自然観察会、里地里山学などの寄附制参加費等
寄附金箱 ※ほとりあ カウンター に設置	—	238,356 円	4 月 29,055 円 11 月 21,665 円 5 月 24,321 円 12 月 5,841 円 6 月 33,536 円 1 月 10,726 円 7 月 41,524 円 2 月 7,300 円 8 月 22,630 円 3 月 円 9 月 11,856 円 10 月 29,902 円
計	12 件	718,534 円	

○出金

・ 399,185 円

	件数	金額	備考（内訳等）
普及啓発物	0 件	—	
事業 支出	—	399,185 円	・ 手ぬぐい製作費 ・ まんませんべい加工費 ・ 生きもの供養祭お布施 ・ 協議会環境保全活動費、備品修繕費 等
計	—	399,185 円	

○現在残額

・ 1,781,355 円

○寄附金総額

・ 3,383,745 円（2025 年 2 月末）

(2)2024年度 庄内自然博物園構想推進協議会 収支決算(2月末時点中間報告)

2024年度 庄内自然博物園構想推進協議会 鶴岡市補助金(見込みを含む2月末時点)

収 入					単位:円
項目	予算金額	決算金額	比較	備考	
補助金(鶴岡市より)	15,900,000	15,900,000	0	協議会事業に対する補助金	
雑収入(預金利息)	159,000	36,431	△ 122,569	視察受入時の謝礼等	
環境応援寄付金	250,000	80,569	△ 169,431		
外部助成金	0	0	0		
管理受託費	120,000	120,000	0	指定管理から事務受託	
合計	16,429,000	16,137,000	△ 292,000		

支 出

項目	予算金額	決算金額	比較	備考
鶴岡市からの補助金に対する支出				
(1)人件費	9,972,000	10,146,000	174,000	職員(3名分)
(2)報償費	750,000	465,000	△ 285,000	講師、ボランティア等謝礼
(3)旅費	121,000	291,000	170,000	職員旅費
(4)需用費	440,000	374,000	△ 66,000	消耗品・食糧費 等
(5)役務費	312,000	238,000	△ 74,000	通信料・手数料・保険料 等
(6)委託料	211,000	0	△ 211,000	
(7)補助金	4,623,000	4,623,000	0	地域おこし協力隊 (人件費・活動費)
合計	16,429,000	16,137,000	△ 292,000	

収入 16,137,000円 - 支出 16,137,000円 = 0円 ※年度末見込み

環境保全応援寄付金(見込みを含む2月末時点)

収入		支出		単位:円
(1)2023年度繰越	1,462,006	(1)寄附金事業支出	399,185	
(2)団体・個人からの寄附	67,000	※グッズ開発、資源活用 等		
(3)寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)	238,356	(2)協議会事業費	80,569	
(4)イベント等での寄附等	413,178	※外来生物活用PJ費用 等		
	0			
収入計	2,180,540	支出計	479,754	

収入 2,180,540円 - 支出 479,754円 = 1,700,786円 ※年度末見込み

4. 協議

(1) 2025 年度 庄内自然博物園構想推進体制（案）及び会議予定（案）

■ 組 織

(1) 庄内自然博物園構想推進協議会（年 1 回開催） 3 月 27 日（木）

(2) 運営委員会（年 3 回開催）5 月、10 月、2 月 ※予定

- ・ 庄内自然博物園構想やその中長期計画（2024～2028 年度）の推進のため、具体的な取組みの検討や計画、実施、進捗管理を行う。

(3) 関係機関調整会議（必要に応じて随時開催）

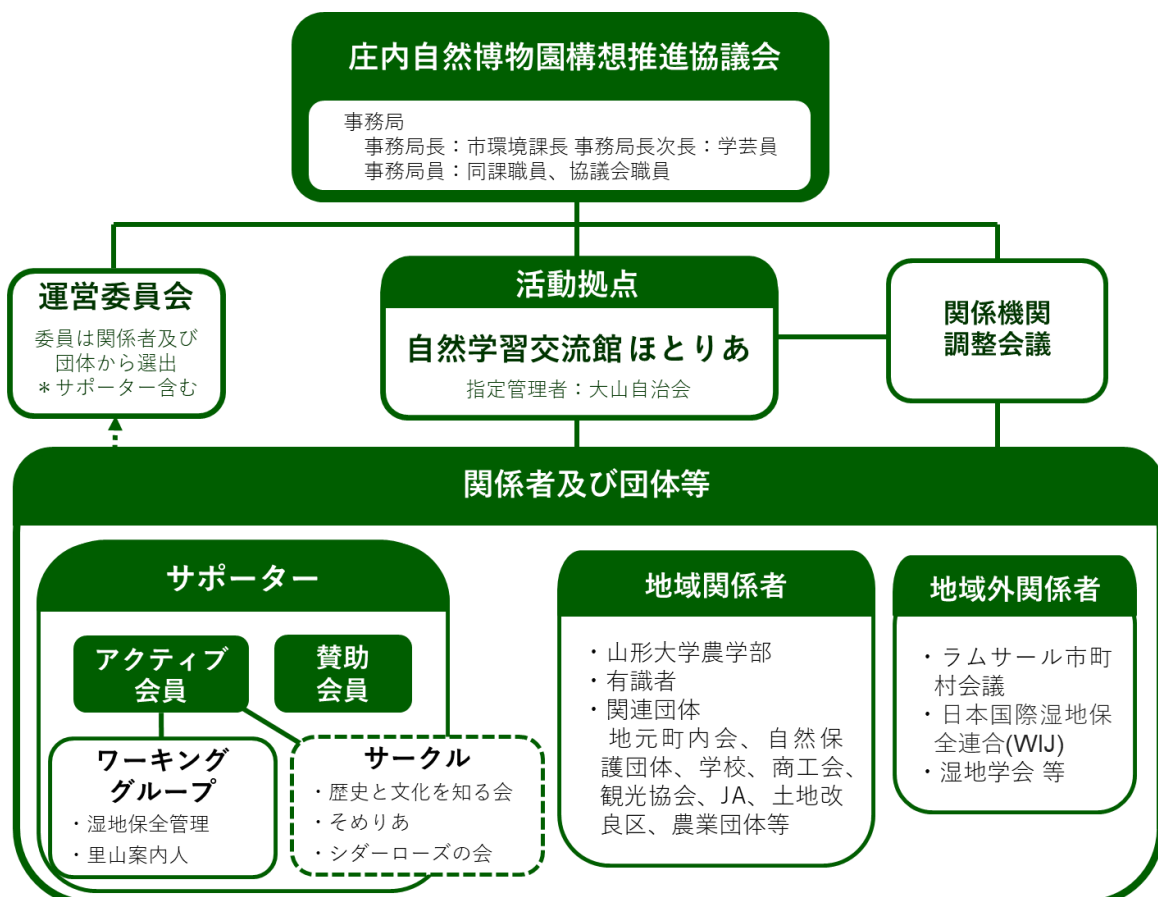
- ・ 構想の推進のための情報の共有と、課題について関係機関・団体等と調整を図る。

(4) ワーキンググループ

- ・ 同じ活動目標を持った運営委員及びサポーターは、ワーキンググループを設立することができることとし、事務局及び他のグループ間との連絡を密にする。

(5) サポーター制度

- ・ サポーター制度は、事業の充実を図るために積極的に活動に参画するアクティブ会員、資金や広報を支援する賛助会員から構成される。各会員は個人、団体とも登録可能である（両方の登録も可能）。
- ・ アクティブ会員は、中長計画の 4 つの目標（まもる、まなぶ、つかう、つながる）の活動を中心に、事業補助などの活動を行う。
- ・ アクティブ会員（個人）には、1 回（約 2 時間）のサポーター活動につき、1 枚のサポーター券（大山商店奉仕会との協働事業）を配付する。



(2)

2025 年度協議会事業（案）及び施設事業計画（案）

1. 保全管理事業

1-1. 外来生物駆除（ウシガエル、アメリカザリガニ）

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池周辺も検討

体制：有償活動（約180時間）

1-2. 外来植物駆除（セイタカアワダチソウ、ブタクサ、アメリカセンダングサなど）

実施期間：5月～10月

実施場所：都沢湿地、下池堤体（所有：西郷土地改良区）

体制：サポーター、地域、企業活動など（*活動状況を見ながら有償活動も検討）

1-3. 外来生物排除区域内の動植物調査

実施場所：都沢湿地北側区域

1-4. 草刈り作業

実施期間：年3回（6，8，10月）

実施場所：都沢湿地

体制：有償活動

1-5. ヨシ・マコモ刈り取り隊事業

実施期間：6～10月

実施場所：都沢湿地

体制：市民による指定された区域内のヨシ、マコモの刈り取り作業

1-6. 湿地保全管理イベント事業

実施数：年10回（今年度は10回開催）

体制：保全管理ワーキンググループ

参加条件：サポーターおよび関係機関や地域住民

1-7. ヨシ焼事業

実施期間：3月

実施場所：都沢湿地

体制：ヨシによる陸地化が進んでいる場所のヨシ焼。24年度は3月29日に実施予定

1-8. 家畜導入による湿地管理

実施期間：4月下旬～10月

実施場所：都沢湿地

体制：2022年からTOTO助成金によりヤギをレンタルすることが可能となった。

ヤギによる除草や刈り取り後の草の採草利用の可能性を検討する。

1-9. みまもり隊事業

実施期間：4月～3月

実施場所：高館山、下池湖畔、都沢湿地

体制及び内容：サポーターを中心に貴重植物の盗掘防止や事業の普及啓発活動として実施。

2. 自然学習事業

2-1. 自然観察会

実施数：年 10 回（今年度 10 回実施）

体 制：講師およびスタッフ、サポーター

2-2. 里地里山学講座

実施数：年 5 回（今年度 4 回）

体 制：講師：5 回

2-3. 里地里山学講座 特別講座

実施数：年 1 回（今年度 1 回、バイオ炭をテーマとした学習会）

体 制：講師：1 回

2-4. 座談会・学習会

実施数：年 2 回（今年度 1 回）

体 制：スタッフ、ワーキンググループ

内 容：地域資源の活用方法をテーマに実施予定。

2-5. アメリカザリガニ捕獲大作戦（今年度 2 回）

実施数：年 2 回

体 制：スタッフ、サポーター、参加団体

内 容：参加団体毎の都沢湿地全体のアメリカザリガニ駆除

2-6. 都沢湿地こどもワークショップ

参加者：庄内地域の新小学 4 年生～新中学 2 年生までの児童、生徒

内 容：都沢湿地の自然や歴史について調べ、現状と課題について考える。

2-7. ほとりあイベントスタンプカード事業

実施期間：4 月～9 月

内 容：水辺のいきもの探しやほとりあのイベントへの参加を促進する事業

2-8. 都沢湿地ウォークラリー事業

実施期間：通年

内 容：都沢湿地を散策しながら湿地や施設について学ぶ事業。

雨天時は館内でも対応可能。

2-9. どろっぱのたまご事業

実施期間：通年

内 容：都沢湿地を散策しながら湿地にかかわるキーワードを探す。

雨天時は館内でも対応可能。

2-10. 自然散策会

実施数：春（4 月、3 月）10 回

体 制：里山案内人ワーキンググループ

内 容：都沢湿地、下池、高館山を案内人と一緒に散策するイベント

2-11. どろんこ広場活用事業

実施数：年 1 回

体 制：地元保育園を招待、関係団体との共催事業

2-12. 学習発表会

開催日：2025 年 3 月第 2 週の土曜日を予定

2-13. ワークショップ事業（有償）

目 的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向け W S

実施数：年 20 回

内 容：野草茶づくり、ヨシ紙づくり

体 制：サポーターおよび地域住民

参加条件：申込みあり、参加費あり

2-14. ワークショップ事業（無償）

目 的：身近な自然環境への興味関心を高める若年層向け、親子向けWS

実施数：年 20 回

内 容：折り紙、童謡、絵本の読み聞かせ、いきものミッケなど

体 制：サポーター

参加条件：申込みなし、参加費なし

2-15. 市内小学校へ出張教室の実施

目 的：複数回の自然学習の促進

2-16. オンライン学習の受入れ整備

目 的：コロナ禍以降に県外の高校、大学からオンライン学習の依頼が増えてきたため、
受け入れ体制の整備を行う。

2-17. 学生インターシップの受入れの検討

目 的：コロナ禍以降、希薄になってきた高校生、大学生との現場での体験の場を創出する
ことを目指し、インターシップの導入を検討する。

3. 中長期推進事業

3-1. 各種事業の推進

中長期計画にそって、各種事業を実施していく

4. 庄内のセブンの森事業

4-1. 湿地保全管理イベント

実施数：年 2 回（6 月、10 月）

内 容：財団および地元のセブンオーナー、市民との協働事業

4-2. セブン財団との交流

5. ラムサール条約登録湿地事業

5-1. ラムサール条約登録 ワークショップの開催

5-2. 国内ラムサール登録地との交流

湿地学会や全国ヒシサミットへの参加

5-3. いきもの絵・ぬり絵コンテスト

市内及び庄内地域の幼保・小学生を対象に開催を検討。

5-4. コハクチョウの飛び立ちカフェ

2025 年は 10 月～11 月に 4 回ほど開催予定。

5-5. コハクチョウの初飛来日あてコンテスト 2025

5-6. ボート遊び事業

6. 外部資金採択事業

6-1. 公益信託 庄内銀行ふるさと創造基金（申請中）

① 申請名「ほとりあ・竹あかりプロジェクト in 都沢湿地 ～環境保全活動の見える化～」

② 申請額：212,950 円

③ 申請内容：鶴岡産竹の購入、竹ドリル、インパクトドライバーなど

6-2. その他

年度途中に応募可能な助成制度があった場合は申請を予定

7. 里地里山活用事業

7-1. 薪確保作業

実施期間：4月～10月

体制：スタッフ及び有償活動

7-2. 里山マルシェ

実施期間：年1回

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター中心に企画、実施。

7-3. 外来生物活用プロジェクト（店舗への食材提供）

提供物：ウシガエル、アメリカザリガニ

提供店舗：鶴岡市内の飲食店提供予定

7-4. 外来生物活用プロジェクト（粉末化事業）

内容：粉末化したアメリカザリガニの料理店や家庭での利用促進

7-5. 外来生物活用プロジェクト（鶏卵事業）

内容：アメリカザリガニの養鶏用の餌利用

7-6. マコモ活用事業

体制：ほとりあスタッフおよびサポーター

内容：刈取りをする大型湿性草本のヨシやマコモの有効活用を検討
レンタル・ヤギの導入による湿地資源循環の取り組み

7-7. ヒシ、ハスの活用循環事業

内容：江戸時代から続く浮草組合の権利物であるヒシやハスの活用について検討。
活用をととして、湿地資源の循環と文化について考える。

7-8. 湿地の恵みのファーム事業（大豆畑）

体制：ほとりあスタッフおよび地元農家

内容：刈取りをする大型湿性草本の堆肥活用と作物の利用。大豆を想定。

7-9. ふるさと納税への出品の検討および商品整理

8. 展示事業

8-1. 企画展示

回数：年2回程度

内容：愛鳥週間、外来生物展示、水生昆虫展示など

8-2. 館内展示

里山情報掲示板や野鳥情報の更新、ほとりあ周辺のへびの展示

9. 調査研究

9-1. 大山上池・下池、都沢湿地 植生調査

委託：山形大学農学部 林田 光祐 教授

9-2. 大山上池・下池、都沢湿地 水質調査

委託：山形大学農学部 梶原 晶彦 助教

9-3. UAVによる湿地環境解析の可能性調査

飛行委託：フレームワークス写真事務所（齋藤圭介氏）

9-4. 大山上池・下池、都沢湿地 水生昆虫調査

委託：コクーン福島（三田村敏正氏）

9-5. ワーキンググループ、サークルなどのサポーター調査活動

- ・ホタルの生息やギフチョウの産卵調査
- ・指標生物種のモニタリング調査
- ・高館山周辺の歴史文化
- ・里山の資源を活用した草木染め

10. 先進地視察事業

10-1. 里地里山先進地視察

開催：年1回程度、対象者：関係機関、サポーター、ほとりあ、環境課

11. 地域交流連携事業

11-1. 大山地域まつり連携事業

大山公園さくらまつり、大山新酒酒蔵まつりとの連携

11-2. 高館山少年教室への協力

11-3. 就労支援施設の実習の受入および事業連携

2025年度は鶴岡市内の就労支援施設の実習の受入1件。事業連携を3件予定している。

11-4. 鶴岡第五中学校地域学習の受入

12. 連携事業

12-1. 森林文化都市関連施設連携事業

市内にある自然学習施設との連携事業を検討

13. 普及啓発物作成

13-1. 活動報告書の制作

これまで未発刊の年間活動報告書（簡易版）を作成

13-2. 活動紹介動画の作成

オンライン学習可能な活動紹介動画を作成

13-3. 本構想の中長期計画HPへのUP

13-4. SNS促進事業

LINE、Instagramなどの活用によるイベント集客の促進

13-5. その他

手ぬぐいや缶バッジ、ぬいぐるみなどPRグッズの開発

(3)2025(令和7)年度 庄内自然博物館構想推進協議会 収支予算(案)

2025(令和7)年度 庄内自然博物館構想推進協議会予算

収 入 単位:円

項目	本年度予算額	備考
補助金(鶴岡市)	17,071,000	協議会事業に対する補助金
環境応援寄附金	300,000	
雑収入	180,000	
利子等	0	
合計	17,551,000	

支 出

項目	本年度予算額	備考
鶴岡市からの補助金に対する支出		
(1)人件費	11,587,000	職員人件費・社会保険料・労働保険料 等
(2)報償費	367,000	講師、ボランティア等謝礼・外来種駆除 等
(3)旅費	94,000	職員旅費
(4)需用費	757,000	自然学習消耗品・食糧費・活動報告書印刷製本費 等
(5)役務費	327,000	通信料・手数料・保険料 等
(6)委託料	112,000	外部委託
(7)補助金	4,307,000	地域おこし協力隊(人件費・活動費)
合計	17,551,000	

環境保全応援寄附金

収入		支出案	
(1)2024年度繰越(見込み)	1,700,786	(1)協議会事業関連(活動費)	100,000
(2)団体・個人からの寄附	30,000	※外来生物活用PJに関する費用等	
(3)寄付金箱による寄附(ほとりあ設置)	120,000	(2)イベントや活動に対する人件費	270,000
(4)イベント等での寄附		※人件費は環境保全応援寄附金全体の2割を上限とする	
		(3)サポーター券寄附金負担分	17,500
		※23年度の使用実績から700枚×25円で算出	
収入計	1,850,786	支出	387,500

※今年度も引き続き寄附金の周知を進めるとともに、寄附金から上記事業への支出を検討したい。

鶴岡市役所の組織改編に伴い、協議会の主たる事務所である「環境課」が下記のとおりとなるため、それらに併せて、庄内自然博物館構想推進協議会設置要綱の一部を改正する。

事務所（所在地）：

鶴岡市馬場町9番25号 → 鶴岡市宝田三丁目13番6号

事務所（名称）

市民部環境課 → 市民部環境政策課

庄内自然博物館構想推進協議会設置要綱（改正箇所抜粋）

（事務所）

第2条 協議会は、主たる事務所を山形県鶴岡市 宝田三丁目13番6号 に置き、従たる事務所を山形県鶴岡市馬町字駒繫3番地1に置く。

～ 中略 ～

（事務局）

第17条 協議会の事務を処理するため、事務局を設置する。

2 事務局は、鶴岡市市民部 環境政策課 及び自然学習交流館内に置く。

3 事務局には、事務局長、事務局次長、学芸員、事務局員及び会計事務責任者を置く。

4 事務局長、事務局次長、学芸員、事務局員及び会計事務責任者は、会長が任命する。